

横路知事・職員向け退任あいさつ

H7.4.21(金) 松舘

鈴木弘泰副知事をはじめ、職員の皆さん。皆さんにこうしてご挨拶申し上げるのも、これが最後となりました。この12年間、皆さんからいただきました温かいご支援とご協力に、心から感謝を申し上げたいと思います。本当に長い間ありがとうございました。

いま、私はこうして、この議場から、就任をいたしました1983年のことを思い起こしております。あの年は、たいへんこの春は暖かい、いいお天気が続いたわけですが、秋田沖の地震が起こりまして、奥尻島が被害を受ける。その後、集中豪雨で登別の被害が出る。秋には大冷害ということになりました。あの雪に覆われた稲穂を見て立ち尽くした日のことを、昨日のこのように思い起こしております。

こうした一つ一つのことにはぶつかりながら、私は知事としての責任の重さと、そしてそれを通じて、祈るということ、感謝をする、ということ自分で知ったように思います。

あの冷害のときに、神奈川県のある年配の女性の方から、テルテル坊主が送られてまいりました。北海道のことを心配をして、本当に見知らぬ人からいただいたこのテルテル坊主。この方のお心、お気持ちに、私は大変感動いたしました。すぐ知事室にこのテルテル坊主を掲げましたら、本当に天気が良くなったんですね。ところが残念ながら、秋早く雪が降りまして、冷害ということになりました。ただしかし私は、こうしてテルテル坊主を送ってくれた方のお気持ちというものを、私はただ受けとるだけではなくて、これからの道政を進めるに当たって、こういうやはり気持ちを持って進めていきたいもんだと、このようにその時決意を新たにしたところでございます。

この83年に、忘れ難いことはもう一つ、一枚の葉書がございました。一枚の葉書が私のところに参りまして、その中にこういう歌が読まれていました。

北の果て 熱き心の 道庁員

北の果て 熱き心の 道庁員

この方が、観光の資料を欲しいということで、私どもの方の担当のところに手紙を送ったらですね、たいへん親切に資料を送ってくれたと、いうことで感激をした本州の方からの手紙でございました。私はこのことは、私たちのやはり仕事の基本というものが、住民の皆さんとのコミュニケーションであり、そして信頼であると、いうことを教えられたような思いがいたしました。そしてこの12年間まさに、熱き心を持った皆さん一緒に仕事をすることができたと思います。

よく東京への出張の帰りに、最終便になりますと、たいへん遅くなります。この道庁の側を通りますと、だいたいいつも明かりがどこかの窓にともっておりまして、その時に私は、ああどの部かなと、いまどんな仕事をしているんだろうかと、そう思って、本当にご苦労様、皆さんには聞こえなかったかと思えますけれども、心の中で本当に感謝をしておりました。この機会を借りて、皆さんのご家族の皆様にも、この12年間ほんとうにいろいろとお世話になりましたことを、心から感謝を申し上げたい、ぜひお伝えをいただきたいと、このように思います。

こうして議場に立ちますと、12年間のことが走馬灯のように思い出されてまいります。災害も、随分たくさんございました。秋田沖地震を入れますと地震が4回。そして十勝岳のあの爆発。炭坑の災害もありましたし、2度の大冷害、水害に集中豪雨と。その度に、本庁の職員の皆さんはもとより、支庁や出先

の皆さんも、本当に寝食を忘れ、休日も返上して、これらの災害対応でご努力をいただきました。

あるいはまた、幌延の問題や泊原発、そして食の祭典のことも思い起こされます。特に、食祭については、職員の多くの皆さんに辛い思いをさせたことを申し訳なく思っております。

企業誘致や観光の宣伝のために、ずいぶんあちらこちらで企業誘致の説明会や、観光の宣伝もいたしました。東京で、大阪で、名古屋で、職員の皆様方も、あちらの企業こちらの企業と、暑い中飛び回っていただきまして、そうした言わば多くの皆さんの汗の結晶が、たくさんの企業立地につながったんだと、このように思っております。

また、道内各地の一村一品運動、まちおこし運動の中でも、だいたいいろんな会合は土曜日曜に、しかも夜開かれる。そこに多くの職員の皆さん方にですね、ご参加をいただいて、地域の皆さんとの交流を進めていただいたということも、本当に感謝いたしております。

この12年間本当に厳しい構造調整の最中でしたから、例えば本道の基盤産業である一次産業も、200海里の問題やガットウルグアイラウンドと、こうした中で、多くの皆さん方にがんばっていただきました。普及所の職員の皆さんも、全道もうほんとうに全ての農村で漁村で山村で、地域の農業や漁業や、あるいは林業の皆さんと話し合いをしながらですね、何とかこの産業振興のためにと、いうことでご努力をいただきました。北海道の農産物などに対する消費者の皆さんの期待というのはたいへん大きいわけですから、これからもやはりみんなでは是非がんばっていただきたいと、このように願っております。

また、工業の振興のためにも、たくさんの

新しい施策の展開をしていただきました。試験研究機関の皆さんにも、たいへんお力をいただいたと感謝しております。「きらら397」の開発でありますとか、あるいは浜の人々とのプラザの開設、実際に工場に行っているですね技術開発など、北海道の技術力のワンランクアップのために、たいへんお力をいただきました。これからますます試験研究機関の果たす役割は大きくなるものと、このように思っております。

また、生活や産業の基盤も、多くの同職員の皆さんのお力で進んできたと思います。空港、港湾、道路、下水道、公園、住宅、新幹線、これらの問題、政府との調整、あるいは町村との交渉とか話し合い、そして本当に地道でありますけれども、例えば用地買収といったような仕事でご努力をいただいた職員の皆さんがおられたからこそ、こうした基盤もですね、整備を進めることができたんだと、このように思っております。

新計画の策定、そして推進というのも、大きな仕事でございました。エアカーゴを初めとする戦略プロジェクトや地域プロジェクト、全くノウハウのある意味ではない、蓄積のないところからスタートされ、勉強され、あるいは足で歩き、ご努力をいただきました。一本の国際線を実現するためにも、いかほどのエネルギーが必要だったのか、たいへんだったと思います。

また国際交流も幅広く、カナダ、中国、韓国、アメリカ、ロシア、北方圏の交流と、ビザなし交流にもご努力いただきましたし、あの火傷の坊やのためにも、多くの皆さんのご努力がありました。

そしてもちろん、医療や福祉や保健、それぞれの分野で、高齢化に対応するために、あるいは地域福祉を進めるために、たいへんご尽力をいただきました。この間充実した施設は、これからの地域福祉の拠点になるもの

と確信をいたしておりますし、ノーマライゼーションという考え方も、ますます地域の中で具体化されていくものと、このように考えております。

交通安全や、人材の養成や文化の振興、あるいは「はまなす国体」や「はまなす大会」、この成功のためにもたくさんの皆さんのご協力がありました。

あるいはまた、税務の現場では、徴収率を上げるためにたいへんご苦勞をいただきましたし、財政厳しい中で予算編成を行い、公約を実行し、道民のニーズに応える政策を進めるためにも、また多くの皆さんのご協力をいただきました。

支庁や出先の機関の皆さんにも、病院で保健所で、あるいは福祉の現場で、土木現業所やその出張所、そしてまた耕地事務所、あるいは普及所や林務署、もうほんとうに、各地域で、住民の皆さんとの第一線に立って、ご尽力をいただきました。

私は、知事に就任しなければ、こうした全道各地で、しかも様々な分野で、道職員の皆さんの努力の姿を知ることはなかったと思います。こうしてこの12年皆さんとともに、苦しいことも辛いことも、うれしいこともございましたけれども、進めてきた仕事は、これからの北海道の発展の中に生きていくものと確信しております。全ての職員の皆さんの仕事を挙げることはできませんが、全ての職員の皆さんに心から感謝を申し上げたいと思います。

そしてまた私は、守衛さんや掃除をしていただいた皆さんや、ボイラーの方や運転手の皆さんにもお礼を申し上げたいと思います。

そして一人だけ、名前を挙げることをお許しいただきたいと思いますが、それは運転手の渡辺隆さん。この12年間、いつも私と一緒にでした。朝早く、夜遅く、12年間、安全運転をしていただきました。心から感謝申し

上げたいと思います。

私はこの12年間、ふるさと訪問などを通じまして、212の市町村を訪問し、どこでも、ほんとうに地域の中でがんばっているすばらしい人々との出会いを重ねてまいりました。また、北海道の持っているすばらしい自然とも触れてまいりました。また、全国に誇り得るたくさんの生産も見てまいりました。この北の大地は一言でいえば「ビューティフルな大地」だと思います。この大地をこれから、掘新知事を中心に、大切にしていっていただきたい、このようにお願いを申し上げます。

最後に私が12年間、仕事をしながら、いつも思い浮かべていた詩を朗読させていただきます。

「六月」

茨城のり子

どこかに美しい村はないか  
一日の仕事の終りには一杯の黒麦酒  
鍬を立てかけ 籠を置き  
男も女も大きなジョッキをかたむける  
どこかに美しい街はないか  
食べられる実をつけた街路樹が  
どこまでも続き すみれいろした夕暮れは  
若者のやさしいさざめきで満ち満ちる  
どこかに美しい人と人との力はないか  
同じ時代をともに生きる  
したしさとおかしさとそうして怒りが  
鋭い力となって たちあられる

本当に長い間お世話になりました。ありがとうございました。

限りないふるさとの発展と、そして皆様方のご健勝をお祈りいたしまして、お礼の言葉といたします。

本当に長い間、ありがとうございました。

(拍手)